

令和6年度実施 横浜市公立学校教員採用候補者選考試験

受験申込受付期間

令和6年4月10日(水)～5月13日(月)午後5時

第一次試験

7月7日(日)

第一次試験は「大阪会場」も設置します！

※試験の詳細は別冊の受験案内をご覧ください。

試験に関する説明会(事前申込制)

横浜会場

4月17日(水) 関内ホール

さらに全国5都市でも開催！

仙台会場 / 名古屋会場 / 大阪会場 /
神戸会場 / 福岡会場

開催日時と会場の詳細はホームページをご覧ください。



臨時的任用職員・非常勤講師等 募集中！
詳しい情報はこちらをチェック！



お問合せ

横浜市教育委員会事務局 教職員人事課 任用係

所在地 : 〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地10

TEL : 045-671-3246

FAX : 045-681-1413

MAIL : ky-kyosyokujinji@city.yokohama.jp

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER

横浜市教員採用ホームページ
詳しい情報はこちらをチェック！



令和6年度実施

横浜市公立学校教員募集

あなたらしく、自分らしく、
思い描いている先生という人生を
ここ、ヨコハマで

先生開化

YOKOHAMA

横浜市教育委員会



ホームページはこちら

先生開化 YOKOHAMA

ヨコハマは、
開港以来、多様な文化や人を受け入れ、
個性に変えてきた歴史があります。
たくさんの仲間がヨコハマに集まり、
励まし合い、ともに成長をよろこび、
自らも日々学び続けています。
ヨコハマなら、変化をいとわず、安心して挑戦できる。

先生開化

「あなたらしく、自分らしく、
思い描いている先生という人生を
ここ、ヨコハマで、ひらいてほしい。」
開化という言葉に、私たちの想いを込めました。
私たちは、
いつだって、子どもたちをまんやかに
明日をひらくために歩み続けます。

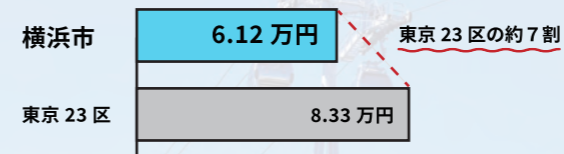


7年連続！ 住みたい街(駅)ランキング“第1位”横浜

1都4県（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県）
出典：「SUUMO 住みたい街ランキング 2024 首都圏版」リクルート調べ

家賃相場

横浜は東京に比べて家賃がお手頃。



家賃（1R及び1K）出典：「不動産情報サイトアットホーム」令和5年5月発表

交通の利便性

市内へのアクセス

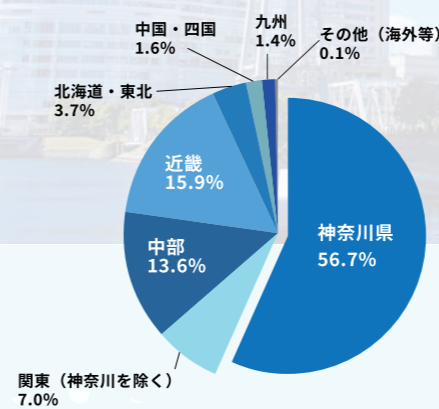
電車やバスなどの公共交通機関を使って、市内の至るところへ移動できます。働く学校が変わっても引越す必要はありません。

市外へのアクセス



最終合格者の出身地割合

(令和3～5年の平均)



横浜移住サイト

だから横浜で暮らしたい

住みやすい環境で、自分らしい生活ができる
横浜の魅力を紹介中です。ぜひ御覧ください！



市立学校データ

(令和5年5月1日現在)

	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	特別支援学校	合計
学校数(校)	337	144	3	9	13	506
児童生徒数(人)	171,621	76,400	2,452	7,647	1,483	259,603
教員数(人)	11,678	5,413	193	853	1,097	19,234

先輩教員を紹介します

Q1：先生を目指したきっかけ、先生になって良かったことを教えてください。
Q2：先生として大切にしていることは何ですか？



岸谷小学校
田邊 未来 新潟県出身

小学校教諭

毎日いきいきと働く両親の姿
～両親が働く姿に憧れて同じ先生の道に～

A1： 小学校の先生だった両親が、普段話してくれる学校での出来事や、教材準備をしている様子を楽しそう、毎日いきいきと働く両親の姿に魅力を感じ先生を目指しました。

日頃から、一人ひとり取り残さないことを意識しながら授業の準備をしています。その中で、子どもたちがいろいろなことに挑戦できるようにアドバイスをした結果、「先生がいろいろなことに挑戦させてくれたおかげで、人前で話すのが苦手だったけど、みんなの前で話すことが楽しくなってきたよ。」と言われました。子どもたちの役に立てたことに喜びを感じ、先生になって良かったなと思いました。

A2： 間違いを素直に認め、謝ることです。相手が大人であっても子どもであっても、自分が間違っているときには、素直に間違いを認めて謝り、そして、行動を改善する姿勢をもつようにはしています。



受験者へのメッセージ

横浜には、放課後に先生たちが集まって授業の勉強や検討をするなど、学ぶ機会がたくさんあります。学校の中でも困ったときには、すぐに頼れる先生方や支えてくれる仲間がたくさんいます。

先生だからこそ味わえる魅力
～子どもたちの課題や目標を達成しようと努力する姿～

A1： 人と関わることが好き、数学が好き、自分の学校生活がとても楽しかった、高校生の時の先生に憧れていたなどのとても単純で純粋な理由からです。学習や行事、部活動などで、子どもたちが課題や目標を達成しようと努力する姿を見ることができるところです。これは、長い期間、子どもたちとともに過ごすことができる先生だからこそ味わえる魅力だと思います。

A2： 多くの時間を子どものそばにいて、先生方や子どもとのチームワークです。教育実習のときや初任者のときに、子どものそばにいて大切と多くの先生に教えていただきました。子どもと関わる時間を多くすることで、信頼関係が生まれやすくなり、表情や行動の些細な変化に気づきやすくなり、また、自分一人では解決できないことや見えないことがたくさんあります。先生方や子どもたちのチームワークがないと良い学校はつくれないと思っています。



受験者へのメッセージ

横浜には、メンターチームがあり、初任者指導の担当の方や心強い先輩たちもいて、初任者や若手の先生に手厚い体制が整っています。不安なことやわからないことを周りの仲間と協力しながら解決できる環境があります。



平戸中学校
安西 慎也 横浜市出身

中学校教諭(数学)

先生は褒めるプロフェッショナル
～忘れられなかった教育実習先の先生の温かい雰囲気～

A1： きっかけは大学の教育実習です。初めは小学校の先生を目指していましたが、特別支援学校の実習先で担当した生徒が得意な力を生かして一生懸命学習に取り組んでいる姿と、サポートしている周りの先生たちの温かい雰囲気が忘れられませんでした。実習を通して、先生たちは褒めるプロフェッショナルだと思いました。自分も子どもたち一人ひとりが頑張っている姿をサポートする仕事に携わりたいと思い特別支援学校の先生を目指しました。

幅広い実態の子どもたちがそれぞれの得意を生かして、どうすれば同じ学習体験を重ねられるかを考え、日々の授業準備をしています。制作した教材が、「やってみよう」という意欲を引き出す支えになったり、楽しそうに笑顔で一生懸命活動する姿につながったりした時に、先生になって本当に良かったと感じます。

A2： “具体的に褒めること”です。子どもたちと学習する中で、日々の「ちょっとできた！」という瞬間の喜びと自信の積み重ねが、大きな成長につながることに気付かされます。また、“昨日できたことが今日もできること”も当たり前ではなく、その時に先生からの言葉や表情、拍手で子どもの頑張りを褒めることが、次の成長への一歩につながると信じています。



受験者へのメッセージ

先生は、子どもたちの人生の一部分に関わることができるとても魅力的な職業だと思います！横浜は県外出身の先生も多く、お互いの地域文化の違いが楽しい日常会話や、授業づくりにつながることもあります。

保健室で感じる子どもたちの成長
～養護教諭としての喜びと誇り～

A1： 子どもたちの生きづらさをサポートしたいと思ったからです。きっかけは高校時代の恩師の「自分の頭で考える」という口癖です。当たり前のことですが、恩師の授業を受けたり対話をしたりするなかで、私はその当たり前ができていなかったことに気づき「自分の頭で考える」癖がつくようになりました。環境を変えることは簡単にはできませんが、考え方を考えることはできます。私も恩師のように子どもたちに気づきの種まきをしていきたいと思い、学校で働くことに興味ももちました。

初任校の離任式で「保健室でたくさん泣いて、先生とたくさん話して、私は強くなった。だからもう、保健室にはいかないよ！」とメッセージをもらったことがあります。このときに養護教諭として、子どもたちを支援していくことの喜びと誇りを改めて感じ、この仕事に就いて良かったと心から思いました。

A2： 子どもの言葉を最後まで聴き、待つことです。聴くことは、子どもの気持ちを受け入れることです。待つことは、子どもの力を信じることです。これは支援の基盤になる、大切な姿勢だと思っています。



受験者へのメッセージ

先生は自分自身が学び続け、それを子どもの学びに還元していくことが仕事です。横浜は、研究熱心なことはもちろん、研修のバラエティーも豊かで、自分の知識や能力をブラッシュアップできる環境が整っている場所です。



矢向中学校
播磨屋 萌 群馬県出身

養護教諭



上菅田特別支援学校
森口 裕太郎 兵庫県出身

特別支援学校教諭

上菅田特別支援学校高等部の生徒が、～みんなが一致団結するTシャツ～をテーマに制作・販売した学校Tシャツです！！

先輩教員のインタビュー動画はコチラから



横浜のワークスタイル

“先生のHappyが子どもの笑顔をつくる”

田邊先生（小学校教諭）のとある1日

7:45～ 出勤
田邊先生
あいさつなどで教室を明るい雰囲気
にするとともに、朝から元気がなさ
そうな子に声をかけています。

8:15～ 業務開始

8:45～ 授業開始

田邊先生
分かる子だけで進んでいく授業に
ならないように、心がけています。

12:15～ 給食の時間

15:30～ 放課後の時間

休憩時間（45分）、会議、授業準備、教材研究などの時間

家庭と学校の連絡システムで、家庭からの電話連絡なく
児童生徒の出欠状況が確認できます。



田邊先生
タスクや切日などを一覧にまとめ、その日に何をするかを決めて
から取り組むようにしています。



資料印刷や配物準備などは、
職員室業務アシスタントがサポートしてくれます。

Q：部活動指導で
心がけていることは
何ですか？



安西先生：生徒が主体的に部活動を運営できるように心がけています。

生徒への指導に不安のある先生に代わって顧問を担い、
単独で指導・引率ができる部活動指導員を配置しています。

～16:50 業務終了時刻

～17:30 退勤

田邊先生
よく寝たり、動画を視聴したり、美味しいものを食べたりしてリ
フレッシュしています。

多くの先生が19時までに退勤しています。

安西先生
子どもと遊んだり、漫画を読んだり、動画を視聴したりしてリ
フレッシュしています。

Q：時間外勤務では、どのような業務をしていることが多いですか？

田邊先生：授業の計画や評価のまとめ作業などをしてることが多いです。

安西先生：行事の準備や成績処理などの学校全体や学年全体に関わることを優先的に仕事しています。

安西先生（中学校教諭）のとある1日

7:50～ 出勤
安西先生
生徒たちの顔を見て挨拶しています。
そのときに、生徒の表情をよく見るよ
うにしています。

8:20～ 業務開始

8:55～ 授業開始

安西先生
授業では、一人ひとりが主体的に取り組むことのできる授業を目標に、授業準備や発問の工夫をしています。

12:50～ 給食の時間

15:45～ 放課後の時間

休憩時間（45分）、会議、授業準備、教材研究、部活動指導などの時間



給与と昇給モデル

初任給	小学校・中学校・高等学校教諭	特別支援学校教諭
大学新卒	約 274,000 円（約 4,238,000 円）	約 286,000 円（約 4,420,000 円）

給与月額（カッコ内は年収）

採用1年目（年収）	10年後	20年後
約 4,238,000 円	約 5,999,000 円	約 7,415,000 円

現在の給与制度をもとに、大学新卒で標準的な昇給をした場合

主な手当

- ・通勤手当 55,000 円 / 月（限度額）
- ・住居手当 19,600 円 / 月（自ら居住するために借り受けた住居の家賃を支払っている 40 歳未満の職員に限る）
- ・期末・勤勉手当 4.50 月分 / 年（令和 5 年度実績） など

休暇

- ・土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
- ・年次休暇 20 日 / 年付与
- ・夏季休暇 5 日 / 年付与 など

学校閉庁期間

教員が休暇を取りやすいよう「学校閉庁期間」を定めており、この期間は各学校の判断で会議も研修も電話対応もない「学校閉庁日」を設定しています。

6月2日（横浜開港記念日） / 8月3日～8月16日 / 12月27日～1月5日（年末年始を含む）

全教職員の年次休暇平均取得日数（令和4年度）
平均 18.4 日
〔参考〕8月の年次休暇平均取得日数 6.0 日
夏季休暇平均取得日数 4.96 日

子育てと仕事の両立支援

働きながら子育てをしていくための制度は、ますます充実しています。

- ・横浜市立学校フレックスタイム制度や育児短時間勤務、部分休業で勤務時間の調整が可能
- ・妊娠前から、多様な休暇制度が充実
- ・育児休業は最長3年まで取得可能で、8割が1年以上取得

※上記はいずれも令和6年3月現在の条例等によります。条例改正等が行われた場合は、その定めによります。

他の給与モデルや休暇制度など、もっと知りたい方はこちら



もっと教員の仕事に専念するために

チーム学年経営による授業準備の効率化（令和5年度 235 校で実施。今後も拡充予定。）

小学校高学年における一部教科分担「チーム学年経営」で、学年の教員が一部の教科を分担して指導することによって、学級を越えすべての児童との日常的な関わりを生み出し、チームとして子どもたちを育てています。
担当教科が絞られるため、授業準備が効率化され、ゆとりが生まれます。また、担当教科は、複数回授業を行うため、授業力も向上します。

充実したサポートスタッフ

職員室業務アシスタント【小・中・義務・特支全校配置】
職員室で、教職員の業務をサポートします。

サポート例：

- ①外部対応（電話、来客、業者対応等）
- ②事務作業（印刷、データ入力、配付物仕分け等）
- ③職場環境の整備（ファイル整理、文書廃棄、掲示等）

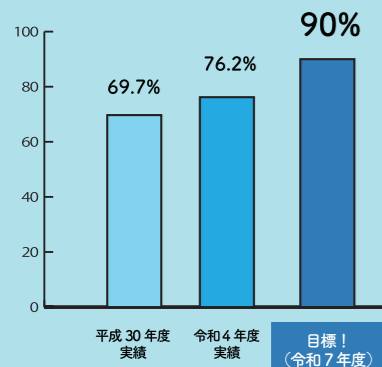
- ・ICT支援員【全校派遣】
- ・AET（英語指導助手）【全校配置】
- ・IUI（国際理解教室外国人講師）【小・義務教育学校全校配置】
- ・理科支援員【小学校全校配置】
- ・学校司書【全校配置】
- ・部活動指導員【中学校全校配置】
- ・スクールカウンセラー など

教育委員会事務局と学校が一体となって働き方改革を推進し、教職員が学ぶ時間を確保することで、教職員の資質・能力を高め、児童生徒の資質・能力の育成に繋がっています。



詳しくはこちら

19時までに退勤する 教職員の割合



横浜はチーム力が自慢です

チーム学校

～チームで取り組む子どもたちの支援～

横浜の学校では、担任、学年主任、児童支援専任教諭・生徒指導専任教諭、養護教諭、特別支援教育コーディネーターなど、様々な役割を担った教職員が互いに連携し、「チーム学校」として子どもたちの成長に寄り添っています。

児童支援専任教諭・生徒指導専任教諭

学級担任をせず、児童生徒の支援や指導を専任する教諭。児童生徒の抱える諸課題への未然防止、早期発見、早期解決のため、校内の中心的な役割となり、支援体制を整えて担任をサポートしている。小学校では「特別支援教育コーディネーター」を兼務。

特別支援教育コーディネーター

各学校における特別支援教育の充実に向けて、中心的な役割を担う教諭。保護者からの相談窓口を務め、担任や保護者、特別支援学校、福祉・医療機関などの関係者と連携し、支援体制を整えている。



チーム岸谷小学校の先生方に伺いました！

Q. 自身の役割と日々心がけていることは何ですか？

児童支援専任教諭(高学年ブロックリーダー)
宮佐 千尋



子どもたちと先生が元気に学校に来てもらえるように、子どもも先生も支えることです。どんな支援が必要なのか、支援を行うために学校としてどんな体制を整えるべきかを考えます。困っているのは子どもだけでなく、先生もその子のためにどうしてあげたらよいか困っていることがあります。子どもと先生の困り感をできるだけ早くキャッチできるように、日頃から観察・声かけ・聴くことを心がけています。

養護教諭
中島 梢



学校では様々な背景をもつ児童が在籍しています。養護教諭は、保健室でけがや病気の応急処置を行うとともに、学校内の保健センターとしての役割をしっかりと果たすことが重要だと考えています。そのためには、来室した子どものお話を聞いていかに聞き取り、担任を始めとする教職員やカウンセラー、医療機関などと情報共有・連携などを行い、その子にとって必要な支援に繋げていくことを意識しています。

子ども達が着実に成長していくための計画や目標を、常に共有できる雰囲気づくりに努めています。そして、高学年のメンバー一人ひとりの考えを大切にしながらチームをまとめています。トラブルに対しては、高学年ブロックだけでなく、児童支援専任教諭、養護教諭とも連携し、迅速、かつ適切に対応するよう努めています。「ひとりで抱えこまない」ということを大切にしています。

6年学年主任(高学年ブロックメンバー)
高橋 恵



学年主任として、学習の進捗状況を確認して授業プランを相談したり、児童指導などの点で悩んでいることや困っていることなどを共有したりして、チームと一緒に課題に取り組んでいます。どんなことでも常に話せる雰囲気をつくることを意識しています。

5年学年主任(高学年ブロックメンバー)
松澤 翔太



6年担任(高学年ブロックメンバー)
馬場 愛納



6年生の担任として、学年主任の先生とよく話し合いながら計画を立てて授業を進めています。子どものことや授業のことで困ったことがあれば、すぐに相談しています。また、児童支援専任の先生とも連携を図り、迅速な対応ができるよう心掛けています。高学年ブロックとして5年生の先生方とも協力をして授業を進めることがあります。「報告・連絡・相談」を大切にしています。

5年担任(高学年ブロックメンバー)
田邊 未来



Q. チームがあって良かったことは何ですか？

児童への対応や指導について迷ったときや困ったときに、一緒に考え、対応して下さる先生方がいると、安心して指導をすることができます。また、その日に気になった児童の様子などについても日々共有することができ、早期に対応すべき内容があればすぐにチームで対応できることがとてもありがたく思います。

メンターチーム

～教員同士でともに学ぶ「メンターチーム」～

横浜の学校では、校内で経験年数の少ない教員等が集まり、「メンターチーム」をつくっています。教員同士が学び合い、互いに悩みを相談したり、課題の解決に向けて話し合ったりして、ともに成長しています。メンターチームの活動内容は多岐にわたり、授業のことはもちろん、係活動の進め方、成績のつけ方、保護者や地域との関係づくりなど、気軽に相談したり教え合ったりしています。



平戸中学校メンターチームの先生方に伺いました！

リーダー
萬木 和正



Q. メンターチームはどんな場所ですか？

チームのメンバーが、「安心」して、「何でも」話ができる「場」であり、「時間」だと思います。メンターチームは教員として必要な知識やスキルを学ぶ場ではありますが、経験豊かな先輩教員が相談にのったり、アドバイスをしたりするなど、仕事上の日々の不安を取り除く「場」でもあります。また、「研修」と銘打ってはいますが、リラックスした雰囲気を実践的な取組のヒントや様々な課題を解決するためのヒントが得られる貴重な「時間」であると考えています。

Q. メンターリーダーとして意識していることはありますか？

私自身が教員として経験してきたことをわかりやすく伝えるときにも、教員の仕事のすばらしさを発見するきっかけをつかんでもらうよう取り組んでいます。中でも、一番大切にしているのは、メンターチームのメンバーの困り感に寄り添うことです。経験年数の少ない先生方の「伴走者」として、役に立てるように工夫しています。

そして個々の先生方にある「自分の壁」を取り払って、メンバーの皆がホッとしたり、悩みごとを気楽に話題に出せたりする雰囲気を作れるように意識をしています。

メンバー
倉持 美雨(採用1年目)



Q. メンターチームがあって良かったことを教えてください。

チームの皆さんと悩みを共有したり、先輩の先生方からのアドバイスを聴いたりする中で、仕事上の不安を解消し自らの「自信」につなげることができました。また、校長先生が研修の中で「この研修はあくまでも教員として成長する入口(きっかけ)です」と言ってくれたことがとても印象に残っています。メンターチームでの研修や活動を機に様々な立場の先生方と人間関係を深め、相談できる方々がたくさん増えたことが、私の安心感につながっています。

今年1年間は何もかもが初めての経験でしたが、相談できる先生がたくさんで、教師としてのやりがいを少しずつ見出すことができました。また、来年度に向けた新たな目標をもつことができ、モチベーションアップにつながったのもメンターチームがあったからです。

学び続ける先生に充実のサポートがあります

採用前からサポート

～安心して教員生活をはじめよう～

採用前の懇談会（1月頃）

採用後も支え合う仲間ができる絶好の機会です。

採用前に、同期の採用予定者と先輩教員を交えた懇談会を実施しています。同じ出身地、校種・教科でグループをつくるので、不安や悩みを共有したり、先輩教員に相談したりすることができます。（令和5年度は約250人参加）
※令和5年度は、特別選考⑧（大学3年生チャレンジ推薦特別選考）の合格者を対象とした懇談会も実施しました！！



採用前研修（12月～3月）

採用前に、教員生活の見通しをもち、児童生徒の前に立つ際の心構えや、着任までに取り組むべきこと等を確認し、安心して着任できるように準備するための研修を実施しています。

eラーニング

コンテンツ内容

- ・着任から一か月の過ごし方
- ・授業づくり
- ・学級づくり など

自分で選んで受講できるオンライン研修

オンライン交流会

同期の採用予定者と Zoom による交流も行います。

配属予定校での研修

4月からの配属予定校で、その学校や学区の状況、業務内容などを学びます。

採用前懇談会参加者の声

たくさんの同期と知り合うことができほんとうによかったです。また、校長先生や先輩教員のお話から学校現場について詳しく知ることができて、着任するのが楽しみにになりました。

横浜型の初任者育成

～実践力を磨き、教職の基盤を固めよう～

初任者研修

校内研修

初任者には、指導教員等が寄り添い、チームで校内研修や支援を行っています。実務を通して実践力を養い、教職の基盤をつくりまします。

校外研修

授業や児童生徒理解等、教職の基盤となる資質・能力の向上を目指します。グループ協議等を通して学び合うことで、初任者同士のつながりも生まれます。



同僚性を高めるための豊富なグループ活動の様子



指導主事によるきめ細かな授業研究会の様子

初任2年目・3年目研修

校内授業研究会や、必修の集合研修のほか、それぞれ見えてきた自身の課題を解決するための研修を、自ら計画を立てて受講します。

教員基礎研修

自分が学びたい内容について、様々なスタイルで学ぶことができます。

何を学ぶ？

- ・集団づくり
- ・学習評価
- ・教育的ニーズへの対応

など

どのように学ぶ？

- ・個人で学ぶ
- ・校内研修として学ぶ
- ・オンラインで他校の教員とグループで学ぶ

など

初任者研修受講者の声

校外研修では、授業や学級経営等について協議し、悩みを共有して、同期との絆が深まりました。校内でも、管理職やメンターチーム等の先生方に支えられ、基本をじっくり学ぶことができました。

選択できる多彩な研修

～自分で選んで、学び続けられる～

中堅教員研修

学校運営において、中核的な役割を果たすことが期待される中堅教諭等として職務を遂行するために必要となるリーダーシップや人材育成について学び、資質・能力の向上を図ります。

選択研修

数多くの研修の中から、学びのニーズに応じて自ら選択して受講します。

教育課題研修の内容（例）

- ・主体的・対話的で深い学びの実現
- ・SDGsと学校教育
- ・コーチング

※テーマは年度によって変わります。

企業等での研修

企業等での業務体験やそこで働く方との対話を通して、社会を捉える視野を広げ、リーダーとしての資質・能力を高めます。

研修派遣

海外研修派遣

海外における教育実践や生活体験を通して、異文化への理解を深めるとともに、コミュニケーション能力等を高めます。



海外研修派遣現地校での様子

派遣先（例）

- ・ニュージーランド

教職大学院・大学等への派遣

教職大学院・大学等への派遣を行っています。研修を通じて教育に関する専門性を高めるとともに、教育課題を解決する力を身に付けます。

海外研修派遣者の声

海外には、子どもが自律して主体的に学ぶ仕組みや子どもとの関わり方等、教育実践におけるヒントがたくさんありました。また、多様性に対する考え方も変わり、自分にとって大きな財産となりました。

学び続けることをサポート

研修受講システム

学び続ける教員のための、研修受講システムです。教育委員会等が用意した様々な研修・コンテンツの中から、自ら選択して受講でき、自身のステップアップに活用することができます。

ハマ・アップ（授業改善支援センター）

ハマ・アップは、授業力・教師力を向上させるための施設で、市内4か所（方面別学校教育事務所内）に設置されています。経験豊かな授業改善支援員（元校長・元副校長）が常駐しており、授業や学級づくりなどの様々な相談に応じています。

授業づくり講座

授業づくりのポイントや学級経営などをテーマにした講座を開講しており、関心のある回に参加することができます。

講座内容（例）

- ・デジタル教科書を活用した授業づくり
- ・個別支援学級の教室づくり・授業づくり
- ・子どもたちの意欲を高める教材づくり
- ・学級経営の充実のために

先輩教員が作成した学習指導案や教育関連図書が豊富にあり、自由に閲覧することができます。



詳細はこちらから



「横浜の教育」の特徴的な取組

“ひとりにしない。子どもたちも、先生も。”

未来の教育の実現に向けた横浜教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）

「教育を科学」することで、子どもの学びの質の向上へ

横浜の考える未来の教育とは、「一人ひとりを大切にしたい学び」の実現です。横浜教育 DX は、①児童生徒、②教職員・学校、③教育委員会の三者をつなぐデータのさらなる分析・活用を進め、横浜の公教育全体の質の向上を目指します。また、24万人の児童生徒を対象とした政令指定都市初・最大規模の「IRT 型の学力調査」※を活用し、そこで得たデータから児童生徒一人ひとりへの指導支援に役立てます。

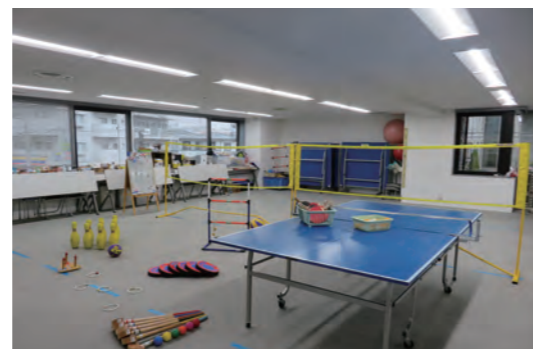
※「IRT 型の学力調査」は、問題への解答状況から問題の精度や難易度、受験者の能力などを推定する項目反応理論（IRT）を取り入れた学力調査です。



一人ひとりの状況に応じた不登校児童生徒支援

不登校児童生徒の状況を丁寧に把握し、チームで支援する

いわゆる「不登校」の支援については、担任のみならず、児童支援専任教諭・生徒指導専任教諭、養護教諭、特別支援教育コーディネーターに加え、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門職と連携した“チーム支援”を実施しています。また、教育委員会では、児童生徒の特性や状態に応じ、安心できる居場所と個別最適な学びを提供できるよう、様々な事業を実施し、不登校児童生徒を支援しています。



ハートフルスペース
支援員と創作活動や軽スポーツ活動をして過ごす場所

「不登校児童生徒支援事業」についてもっと知りたい方はこちらから



一人ひとりを大切に特別支援教育

すべての学校が連携した特別支援教育を提供

横浜には、13校の特別支援学校があります。さらに、すべての小・中・義務教育学校には、個別支援学級（特別支援学級）、特別支援教室を設置し、通級指導教室と合わせて多様な学びの場を提供することで、子どもたち一人ひとりの障害の状況や教育的ニーズに応じた教育活動を行っています。

横浜型センター的機能

特別支援学校や通級指導教室の教員、地域療育センターのスタッフ等が、それぞれの専門性を活かして、各学校の教員の支援や特別支援教育等に関する相談・情報提供、研修やサポート等も行っています。



小・中・義務教育学校内の教員研修に、特別支援学校の教員が参加し、その専門性を生かして情報提供を行うなどの支援を実施しています。

外国につながる子どもたちへの支援

多様な価値観の中で学び合える環境を整える

国際都市である横浜には、外国につながる子どもたちが数多く在籍しており、学校の中で世界を感じることができます。外国につながる子どもたちができるだけ早く学校になじみ、国籍に関係なく、多様な価値観の中ですべてに学び合える環境を整え、多文化共生や他者を尊重する力を育てています。

国際教室

日本語指導が必要な児童生徒が一定数以上の学校に、国際教室を設置し、担当教員が日本語指導だけでなく、教科指導や生活適応指導等も行います。

日本語教室

専門的な資格を持つ日本語講師が、基礎的な日常会話や文字の指導を行います。小学生は在籍する学校で、中学生は市内5か所にある「集中教室」で日本語指導を受けます。

母語通訳ボランティア

授業中に子どもの横で授業内容の通訳を行ったり、転入学時の説明、個人面談、家庭訪問などで保護者への通訳を行ったりするボランティアを派遣しています。

日本語支援拠点施設「ひまわり」「鶴見ひまわり」「都筑ひまわり」

来日もない子どもたちに、集中的な日本語指導や学校生活に適応するための指導のほか、子どもと保護者向けの母語によるガイダンスも行います。



日本語指導者養成講座

国際教室担当教員や日本語指導に関心のある教員を対象に、研修を行います。講師は日本語指導が専門の大学教授などが担当しています。

自分づくり（キャリア）教育

地域や社会とともに未来を生きていく力を育む

横浜では、子どもたち一人ひとりが自分に自信をもち、社会や集団の中での役割を意識し、夢や目標をもって社会に貢献していく人を育成する「自分づくり（キャリア）教育」を推進しています。その大きな取組の一つとして、地域企業等と連携し、子どもが主体的に「地域課題の解決」に取り組むことで、今も将来も社会に貢献していく「はまっ子未来カンパニープロジェクト」を平成28年度から実施しています。



取組名：ロスフラワーで伝えるありがとう



令和6年2月13日学芸発表会の様子

横浜の教育が 目指す人づくり

第4期横浜市教育振興基本計画の3つの視点の具体化に向けて(イメージ図)

自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人 わたしの・あなたの・みんなの成長

視点1

一人ひとりを大切に…

～本気で「誰ひとり取り残さない」を実現～
特別な支援が必要な子どもも、日本語指導が必要な子どもも、不登校の子どもも、口には出せないけれども苦しみを抱えている子どもも。
26万人全員の個性に応じた「成長」を大切にします。



特別支援学校や個別支援級
などで学ぶ児童生徒 … 約14,000人
日本語指導が必要な児童生徒 … 約3,100人
不登校児童生徒 … 約6,600人

視点2

みんなの計画・ みんなで実現

先生が一人で抱え込む教育は限界。
学校のチカラ、家庭・地域のチカラ、企業・NPOのチカラ、
子どもの成長に関わるみんなの力を結集して、
みんなではまっ子をはぐくみます。



視点3

経験・勘 × データ

先生が培ってきた経験・勘にデータをかけ合わせ、
より確かな子どもの理解、
早期の子どもサイン発見を実現します。

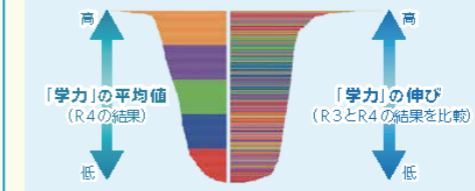
EBPM[※]の推進

※Evidence Based Policy Making エビデンスに基づく政策形成



クラスや学校、市の平均点の比較にとらわれず
一人ひとりの学力に応じて「伸ばす」教育へ。

「学力」の平均値が高い学校 ≠ 「学力」を伸ばす学校
どの学校も、子ども一人ひとりの「学力」を伸ばすことができる



※「学力」…横浜市学力・学習状況調査における、学習の理解や習熟の状況
出典：「令和4年度横浜市学力・学習状況調査」

「学力」の伸びを最重要指標の1つに掲げる取組は初の試み

上記イメージ図は、右記の本計画の3つの視点を分かりやすいように図示したものです。

[視点1]一人ひとりを大切に…子ども一人ひとりの個性や多様性を大切に、「だれもが」安心
[視点2]みんなの計画・みんなで実現…複数で子どもに関わる体制の強化及び、家庭・地域・
[視点3]EBPMの推進…「横浜市学力・学習状況調査」等のデータ分析により授業改善や児童

して「豊かな」人権尊重の精神を基盤とする教育を推進するとともに、それぞれの資質・能力を育成します。
関係機関・民間企業・NPO等との連携・協働により、チーム横浜で子どもを育てます。
生徒理解を一層推進するとともに、客観的な根拠に基づく教育政策を子どもの成長に関わる人と共有し、連携して質の高い教育につなげます。

第4期横浜市教育振興
基本計画（2022～2025）
を策定しました。



詳しくはこちらから

横浜の教育が育む力

- 知 生きてはたらく知
- 徳 豊かな心
- 体 健やかな体

- 公 公共心と社会参画
- 開 未来を開く志

詳しくはこちらをチェック！



横浜の求める教師像

- ・教育への使命感や情熱をもち、学び続ける教師
- ・「チーム学校」の一員として、ともに教育を創造する教師
- ・子どもによりそい、豊かな成長を支える教師